

甲斐市立双葉東小学校 自己評価書（前期）

平成20年7月22日(火)作成

校長 「 中 千 博 」 記述者 職名(教頭)「 太 田 充 」

学校教育目標 「 かしこく やさしく すこやかに 」
 ・ 自ら学び 自ら考え 行動する子ども ・ 人を愛し 自然を愛する子ども
 ・ 健康で 安全な生活を 目指す子ども ・ 困難なことものりこえる子ども

学校経営方針
 ○ 生きる力の育成(知・徳・体) 一心の教育の充実—
 ○ 学校・家庭・地域の連携強化 一開かれた学校づくり—
 ○ 教師こそ児童にとっての最大の教育環境 一教師の親和性の高揚—

1 全体評価

自己評価結果は総じて、高い水準にある。項目Ⅰ「学校教育目標・学校経営について」、項目Ⅱ「学校運営について」、項目Ⅲ「学習指導について」、項目Ⅳ「生徒指導について」、項目Ⅴ「地域との連携について」、項目Ⅵ「学校の特色に関して」の全てにおいて高い数値結果であった。自己評価49質問の全てが肯定的評価(A・B)で、否定的評価(C・D)は3質問にCがあったのみで、そのいずれも1名のみで、数値は3,4パーセントであった。Dは全くなかった。本年度も前年度同様に、たいへん高い水準にあるといえる。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

Ⅰ 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 自己評価の7質問の全てが、肯定的評価(A・B)であった。その肯定的評価(A・B)の中でも5質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号6・7の2質問はA評価よりB評価の方が若干高い評価結果であった。また、質問番号5・6には1名(3,4パーセント)のC評価あった。
 総じてこの「学校教育目標に関して・学校経営について」の項は、高い評価結果といえる。

改善策
 ・ 教職員個人のPDCAサイクルの実施より学校教育活動でのPDCAサイクルの実施の結果の方が高かった。個人のPDCAサイクルと学校全体としてのPDCAサイクルとの効果的な関連と連携に努めることが必要である。
 ・ 教職員厚生部を中心に計画的な厚生事業の実施や、メンタル面を重視し積極的に教育相談等を取り入れ、働きやすい職場づくりに努めることが大切である。

Ⅱ 学校運営について

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価(A・B)であった。その肯定的評価(A・B)の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号2・5・8の3質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。否定的評価(C・D)は全くなかった。
 この「学校運営について」の項も、高い評価結果といえる

改善策
 ・ 避難訓練や危機管理マニュアルの作成等を通して、教職員一人ひとりのリスクマネジメント・クライシスマネジメントへの理解と実践力を高めることが必要である。
 ・ 会議や研究会の持ち方・進め方を工夫し、個々の教職員の校務分掌への理解と協働体制を図りながら、積極的に参加できる雰囲気作りや学校作りに努めることが大切である。

Ⅲ 学習指導について

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価(A・B)であった。その肯定的評価(A・B)の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高く、1質問が同じ評価結果であった。しかし質問番号5・7の2質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。否定的評価(C・D)は全くなかった。
 学習指導に関する児童用アンケート質問の全てが肯定的評価(A・B)であったが、項目によっては否定的評価(C・D)も、およそ約5~30パーセントの範囲内であった。
 質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、総じてこの「学習指導につい

	て」の項も、高い評価結果といえる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究を通じて授業内容の充実を図り、教材の持つ本質や真理に迫ることの楽しさや喜びを子どもたちに伝えていくような授業作りに努めることが肝要であると考える。 教職員一人ひとりが児童の実態を的確にアセスメントし、授業時間だけでなく休み時間や放課後などあらゆる時間を利用し、子どもに寄り添う姿勢を持って関わっていくように努める必要がある。 自由に質問や発言できるような学級雰囲気作りに努めることが、これからますます重要になる。
IV 生徒指導について	
達成状況	<p>自己評価の7質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号3はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。否定的評価（C・D）は全くなかった。</p> <p>生徒指導に関する児童用アンケート質問の全て肯定的評価（A・B）であったが、項目によっては否定的評価（C・D）も、およそ約2～25パーセントの範囲内であった。</p> <p>質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、この「生徒指導について」の項も、高い評価結果といえる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 小学校段階での生き方教育（キャリア・進路指導）について、これからも研究と研修、また実践を深めるよう努めなければならない。
V 地域との連携について	
達成状況	<p>自己評価の9質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも5質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号2・4・7・8の4質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。否定的評価（C・D）は全くなかった。</p> <p>質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、大項目全5項目の中では「地域と連携について」のこの項は、今後さらに検討を必要とする評価結果といえる。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 各種たより等で学校関係者評価委員を紹介したり、学校評価制度がより周知されるよう努めなければならない。 今後も積極的に保護者や地域の声を広く受け止める姿勢や方法を考えていかなければならない。
VI 学校の特色に関して	
達成状況	<p>自己評価の8質問の全てが、肯定的評価（A・B）であった。その肯定的評価（A・B）の中でも8質問の全てがB評価よりA評価の方が高い結果であった。しかし質問番号5の質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。しかし質問番号5に1名（3,4パーセント）のC評価あったが、D評価は全くなかった。</p> <p>各質問とも数値のみで推しはかることはできないが、大項目全5項目の中で「学校の特色に関して」の項は、たいへん高い評価結果といえる。</p>
3 まとめ	
<p>〈成 果〉</p> <p>自己評価・児童アンケートから本校の教育活動の状況が見えてきた。学校教育目標の具現化に向け、適切に学校運営がすすめられていることや、今までの取り組みの成果を生かした特色ある学校作りがおこなわれていることなどが確認できた。</p> <p>〈課 題〉</p> <p>平成18年度から実施された学校評価システムの目的や意義も理解され、順調に進んできている。評価のための評価に終わることなく、常によりよい学校作りやより充実した学校教育のための評価であることを意識し、これからも取り組まなければならない。</p> <p>学校評価結果をよりの確に分析し、成果と課題を十分に踏まえるとともに、さらなる学校教育の充実に向け努めていかなければならない。</p>	